

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 10月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201471
法人名	株式会社 スタッフ・アクタガワ
事業所名	スタッフ・アクタガワ グループホーム 若草の家 城北
所在地 (電話番号)	静岡県静岡市葵区池ヶ谷6番20号 054-249-1188
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年5月22日

【情報提供票より】(平成 19年 5月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	18 人	常勤 18 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	4.425 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(45,600 円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 125 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(5 月 10 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	5 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低 76 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	しらいわ医院・近藤歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ケアセンター城北は、グループホーム・小規模多機能・デイサービスを中心とし、介護予防も含めた地域密着型の多機能なサービスを提供している。特にデイサービスは、国際品質規格 ISO9001 の認証を取得しており、その一環としてグループホーム若草の家も内部監査やQMS(クオリティマネジメントシステム)委員会の活動を共にし、質の高いサービスの維持と向上に努めている。特に研修システムが整っており、職員個々のスキルチェック表に基づいてOJT・OffJTの研鑽が行われ、社内資格「スーパー技能士」や「ベスト技能士」を目指し、利用者本位の介護が実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事業所の特徴に記したように、ISO9001認証取得の経験から自己評価・外部評価に対する意義をよく理解しており、管理者・職員が一丸となって取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、順調に機能し始めている。最初はホームの理念や一日の流れを説明し、その後は防災訓練の成果と反省、ホームのふれあい祭りへの参加要請や協力申し出等がなされ、地域・行政とのより良い関係が築かれ始めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便り「城北」の発行・年2回の家族会・ホーム行事への家族の参加・日常訪問時の対話等を通じて、家族の意見・不満・苦情を取り上げ、ホームの運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の花火大会や防災訓練、ホームのふれあい祭り等に相互に参加し合い、地域との連携が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

、取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケアセンターの理念「共に暮らし、共に生きる」に基づき、地域に親しまれるホームを目指している。地域の行事やホームの行事に相互に参加を心掛け、入居者が地域の中でその人らしく暮らし続ける努力がなされている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念はホーム内に掲示され、また、スタッフミーティングや会議で「確認テスト」的要素を取り入れて確認し合い、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の花火大会への参加や、ホームのふれあい祭りへの招待等、相互に参加し合い、地域の人々との交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	併設施設が国際品質規格ISO9001を取得しており、自己・外部・第3社の評価の持つ意義をよく理解しており、QMS(クオリティマネジメントシステム)委員会や内部監査の場を通じて、具体的な改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会が着実に実施されている。行政・地域・当事者の然るべきメンバーの参加があり、時宜を得たテーマが取り上げられており、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課とは密に連絡を取り合い、アドバイスも貰っている。認知症に対する講師も依頼されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の生活振りは、ホーム便り「城北」や面会時に状況説明されているが、家族アンケートの中にもう少し状況を詳しく知りたいという意見があった。	○	ホームでは当り前のサービスだと思っていることが、家族にとっては心配なことがあるようである。時折「当り前のことも知らせる」そんな工夫をお願いしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の連絡や年2回の家族会の中で、家族の意見・不満・苦情を取り上げ、それらをホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の福利厚生・研修等に力を入れ、離職率は法人内で一番低い。代わる場合は利用者へのダメージを少なくするため、十分な申し送りに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルチェック表により職員のレベルが把握され、「スーパー技能士」「ベスト技能士」の社内資格認定制度に職員が挑戦している。それを支える社内・社外の研修も活発に行われ、部下を教える里親制度も取り入れられ、ケアの質向上に役立っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	訪問介護・通所介護・小規模多機能等が併設されたセンターであり、幅広い地域の同業者との交流会に参加し、質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規入居に際しては一次・二次判定が行われ、また、併設されているデイサービスでの経験・お泊り体験をふまえて、馴染みながらサービスの利用ができるよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの状況把握表を基に、個性を尊重して接している。調理や片付け等を一緒に行いながら、入居者から学ぶ姿勢が感じられた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の思いや意向は、介護経過記録や申し送りノートに記録し、検討され共有している。それを基に、利用者本位に寄り添いながら見守る支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の希望などが反映され、幅広く検討された内容だった。また、地域の方や中学校との話し合いで、行事参加や中学生の施設訪問など、ふれあいの支援も行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の目標は3ヶ月ごとに見直しがされる。個人対応表・介護経過記録から状況が把握され、必要に応じた計画の見直しに努めている。家族会議や面会時等を利用した家族への報告や話し合いも行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービス等との連携の基に、グループホームの人員配置・合同体操・ドライブの便乗等、多機能を生かした柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は基本的に同行は家族になっているが、希望や必要に応じて職員が代行する。また、協力医療機関の往診が定期的に行われるため、診察を受ける利用者も多い。当日は診察日で利用者が落ち着いて診察を受ける様子が窺えた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は主治医・家族への連絡や状況報告は行われている。ホームとして「できること・できないこと」を見極め終末期の利用者や家族への支援に取り組んでいる。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員は認知症研修を受け、日々の介護に活かし、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応されている。外来者にも利用者への対応について説明がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその人らしく安心して暮らせる支援を目指し、個々の状況や課題について把握し検討されている。職員の教育やチームワークの良さによって、見守りと具体的な支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みを尊重し、食事は各々好みの場所で職員と一緒にとられている。職員は衣服やテーブルの汚れにも不快感を持たせないように静かに話かけ介助されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のスケジュールは利用者ごとに決められている。利用者が希望されない場合は、間をおいてから言葉かけするなどしている。入浴希望の対応にも工夫が見られ、こまめに時間帯や日程の変更を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は段差の無いウッドテラスに出てお手伝いをするなど、本人の意思やペースに合わせて役割分担されている。草花や畑作りは、利用者に季節感を与える効果にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	レクリエーションや買い物の折などを利用して外出の支援は行われている。併設されたデイサービスのドライブにも声掛けし、小旅行的な外出を利用者は楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さについては認識されている。スタッフルームからも利用者が外出しそうな様子は確認できる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施され、訓練についての反省内容も検討されている。日頃から職員に避難経路と誘導の確認は行なわれている。非常災害用品の毛布・ペットボトル等が備蓄されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌にバイタルチェックと共に献立と喫食量が記録されている。各自の好みや体調による主食等の変更についてコメント書きが台所に用意され、確認しやすい状態にもなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の車寄せの屋根は雨天の場合への配慮がされ、地域の方のお祭りの場所としても利用されている。室内に続くテラスは開放的で、天気の良い日は日差しと風が利用者に心地よさを与えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には各自が使い慣れた家具が置かれている。また、家族の写真や自作の作品が飾られ、安心して過ごされるような環境が作られていた。		